

Citation: Sirven J, Sperling MR, Wingerchuk DM. Early versus late antiepileptic drug withdrawal for people with epilepsy in remission. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2001, Issue 3. Art. No.: CD001902. DOI: 10.1002/14651858.CD001902.

CRG名: Cochrane Epilepsy Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 10 OCT 2011

Clib issue No.; N/U: 2012 Issue 4; U

アブストラクト

背景: 本レビューは、2001年第3号発表のコクラン・レビューの更新である。

抗てんかん薬(AED)は、発作を防止するために使用されるが、短期的および長期的な有害作用と関連している。てんかんが寛解している場合、薬物の中止は個人の最大の利益となる可能性がある。しかし、AED中止の至適時期は不明である。

目的: 成人および小児てんかん患者を対象に、早期(無発作状態が2年未満)AED中止と後期(無発作状態が2年超)AED中止後の発作再発リスクを比較定量化すること。どちらが発作再発リスクを変化させるか評価すること。

検索戦略: Cochrane Epilepsy Group Specialised Register(2011年10月)、CENTRAL(コクラン・ライブラリ2011年第4号の4)、MEDLINE(1948~2011年9月第4週)、CINAHL(2011年10月10日)を検索した。

選択基準: 成人と小児のてんかん患者を対象に、様々な発作寛解期間後のAED断薬を評価しているランダム化比較試験。早期AED中止と後期AED中止を比較している研究を選択した。

データ収集と分析: 2名のレビューアが別々にデータを抽出し試験の質を評価した。相対リスク(RR)と95%信頼区間(CI)を各試験について算出した。ランダム効果モデルを用いて、二値データについての要約RRと95%CIを算出した。プールした相対リスクの算出のそれぞれについて、統計学的異質性を検定した。

主な結果: 7件の適格な比較試験を本解析に選択し、924名の小児がランダム化されていた。無発作状態の成人を評価している適格試験はなかった。後期AED断薬に対する早期AED断薬のプールした発作再発相対リスクは、1.32(95%CI 1.02~1.70)であった。本推定値に基づくと、有害性の必要数(number needed to harm)、すなわち早期AED断薬のために発作再発が高リスクである一人に必要な人数は10人であった。早期中止は、部分発作の人(プールしたRR1.52、95%CI 0.95~2.41)または異常脳波(EEG)の人(プールしたRR1.67、95%CI 0.93~3.00)での高再発率に関連していた。

レビューアの結論: 小児、特に異常EEGおよび部分発作がある小児では2年以上の無発作状態を待ってからAEDを中止することを支持するエビデンスが認められた。全身発作小児でのAED断薬時期を確立するエビデンスは不十分であった。無発作状態の成人でのAED断薬時期を導くエビデンスはなかった。AED断薬の至適時期および再発を予測するリスク因子を同定するため、さらなる盲検化ランダム化比較試験が必要である。

簡易な要約(Plain language summary)

てんかん寛解患者での抗てんかん薬早期断薬と後期断薬との比較

Copyright(c) All rights reserved by Minds, Japan Council for Quality Health Care
発作のないてんかん成人患者において抗てんかん薬を断薬する最適な時期を示す十分なエビデンスはない。さらなる研究が必要とされている。

てんかんとは、脳からの異常な電氣的放電により発作が反復して起こる疾患である。抗てんかん薬(AED)は、これらの発作を防止するために用いられるが、長期の有害作用を伴う。寛解している場合その薬剤の使用を中止することが最良であるが、最適な中止時期は不明である。試験についての本レビューでは、小児、特に部分発作または異常脳波(EEG)がある小児では2年以上の無発作状態を待ってからAEDを中止することを支持するエビデンスが認められた。さらなる研究が必要とされている。

(監訳 江川 賢一)

翻訳公開日:2012年8月29日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。